

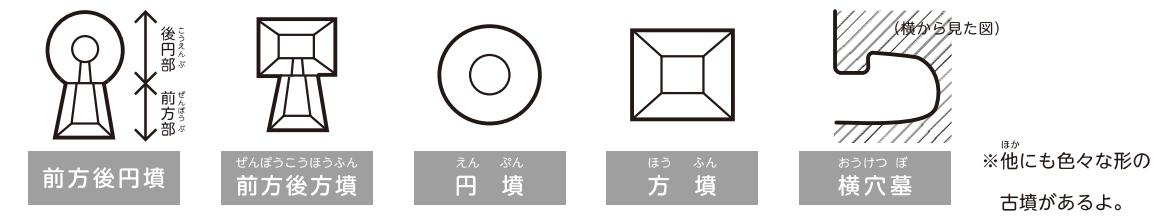
国史跡 長塚古墳

所在地: 可児市中恵土

古墳とは??

古墳というのは、前方後円墳を代表とする土や石などを盛り上げて造ったお墓です。今から約1750年前～約1300年前までの間に多くの古墳が造られ、その時代を古墳時代と呼んでいます。

さまざま 様々な古墳の形



可児市の古墳

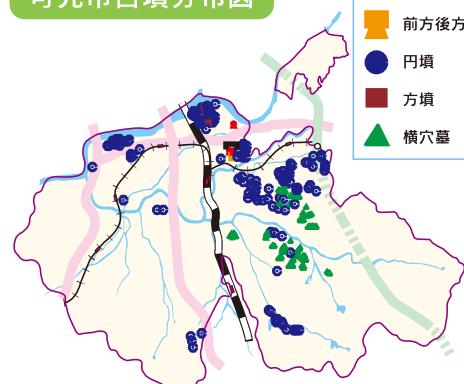
可児市では、古墳時代の初めのころは広見、中恵土に長塚古墳をはじめとする大型の古墳が次々と造られます。

古墳時代の後期になると、川合、土田、羽崎、久々利、大森などにも比較的小規模な古墳がたくさん造されました。

可児市の中で、最も大きな古墳が長塚古墳です。長塚古墳は、形が良く残る前方後円墳で、東濃地方で最大であることから、昭和31年に国の史跡(日本の歴史を語る上でかかせない遺跡)になりました。

今から約1650年ほど前、可児市を含む東濃地方一帯をまとめたリーダーたちが、この近くに住んでいたと考えられます。

可児市古墳分布図



長塚古墳と前波の三ツ塚

長塚古墳は、ちかくにある西寺山古墳(前方後方墳・規模60m)、野中古墳(前方後円墳・規模62m)とともに、「前波の三ツ塚」と呼ばれています。

造られた順番は、西寺山古墳→野中古墳→長塚古墳の順です。

長塚古墳ってどんな古墳??

全長72m 後円部直径 38.4m 後円部高さ 6.9m
前方部長さ 35.8m 前方部幅 28.5m
前方部高さ 4.7m
古墳の周りには堀がめぐります。

※粘土槻の中は後世に

大切に保存していくために、
掘っていないよ。

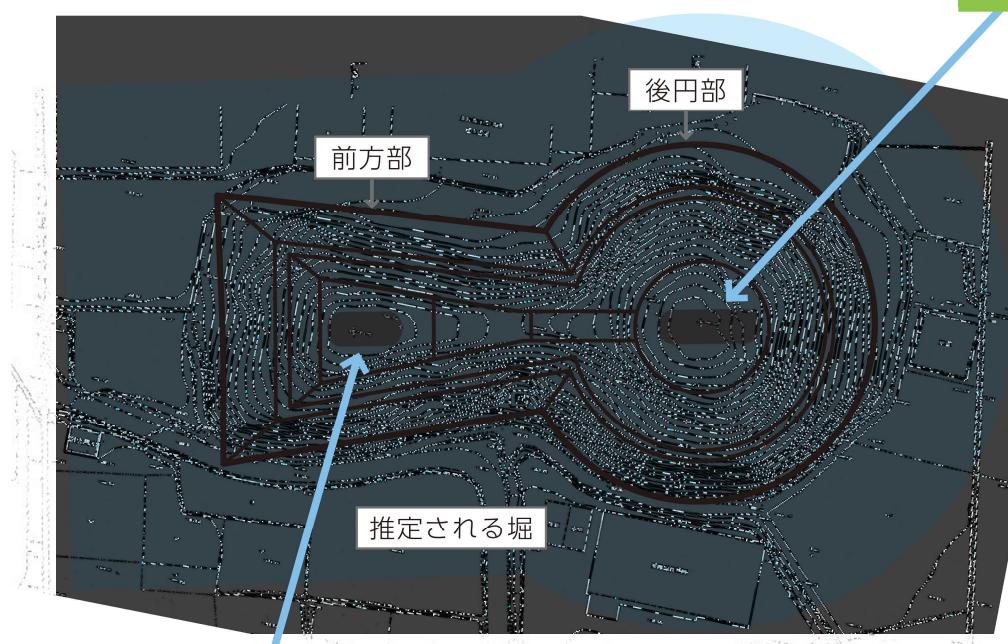
長塚古墳では2つの埋葬施設(遺体をおさめる場所)が
みつかっています。

- 後円部では、木の棺のまわりを粘土で固めた埋葬施設(粘土槻)が
みつかっています。
粘土槻の大きさは長さ7.4m、最大幅2.0mです。



調査に基づく復元ライン 遺体をおさめた場所 古墳のまわりの堀

にし
西から後円部の埋葬施設(粘土槻)を見る



お墓の穴からた
どさ
土器



前方部の副葬品

- 前方部では、木の棺の跡がみつかりました。

木の棺は長さ約4.9m、幅約0.6mです。

木の棺は腐って残っていませんでしたが、中からは副葬品(腕輪や首飾り、鏡)が多く見つかりました。

① 石釧 (いしくしろ) …… 1点

② 管玉 (くだたま) …… 16点

③ 琥珀玉 (こはくだま) …… 35点

④ ガラス玉 …… 578点

⑤ 振文鏡 (ねじもんきょう) …… 1点

副葬品とは亡くなった
ひとそな
しなもの
人に供えた品物だよ

ふくそうひん うでわ かざ